

多高通信

第172号 令和元年 11月27日発行



さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

台風19号 被災地ボランティア

10月27日、台風19号で被害を受けた大崎市鹿島台にボランティアに行ってきました。参加したのは、サッカー部員20名、生徒会執行部2名、男子バレーボール部員1名計23名の有志です。バスで学校を出発し、まずは災害ボランティアセンターのある鎌田記念ホールに行き、受付とマッチング(作業内容の割り振り)をしました。その後、吉田川の越水による浸水被害のあった川前地区に移動し、災害ゴミの運び出しや敷地に流入した稲わらの片付けなどを手伝いました。



ボランティアセンターでのマッチング

初めて災害ボランティアに参加した生徒ばかりでしたが、被害に遭われた方と一緒に荷物の運び出しなどに汗を流しました。活動終了後に「高校生に手伝ってもらって、片付けが進んだ。ありがとう」とお礼の言葉をいただきました。私たちがお手伝いできたのは3時間程度です。少しは力になれたと思いますが、被害に遭われた方たちが日常を取り戻すまでにはまだまだ時間と労力が必要だと感じました。

■1年2組 市川詩織(中野中出身)
同じ宮城県でも、私の周りとの状況の違いに驚きました。今回、ボランティア活動に参加させていただき、改めて自然災害は怖いと感じました。ずっと同じような作業をしていたので、大変でしたが、ありがとう「すくすく丁寧だね」助かったよ」と言ってもらい、頑張ってたかったと思っただけで、力になれたと思うと嬉しい気持ちになれ

した。今後も参加できるボランティア活動があれば積極的に参加したいです。

■2年1組 千葉響
(多賀城二中出身)

実際に被災した場所に行くと、台風19号の被害の大きさを改めて感じました。私は稲わらの処理をしました。稲わらだけでもたくさんあって、ゴミなども落ちていてなるべくきれいにできるように活動しました。今回ボランティア活動をして、自分が当たり前に過ごしている環境を当たり前だと思ってしまうと思いました。またボランティアに参加できるときは参加したいと思っています。



■2年4組 岩佐 唯花(多賀城中出身)

今回のボランティアを通じて、私は台風も地震と同じように関心を持たなければならぬと思いました。ボランティアをさせていただいたお宅に入ったとき、私は8年前の震災時の自宅の様子とほぼ同じ状態であることに驚きました。まるで津波が来た後のような被害だったので、自分の台風に対する考え方が変わりました。私たちはどこか台風に対して甘く見ているように思います。これから温暖化が進むにつれて今回のような台風が当たり前になってくると思うので、台風への考え方を直すべきだと思います。

1学年 社会人講話

11月12日、1年生を対象に「社会人講話」が行われました。各分野で活躍する社会人を講師として招き、社会人としての常識「職務遂行に必要な知識」今後の学校生活で学ぶべきことなどについてお話していただきました。普段の授業とは違った形での講義に、生徒は目を輝かせて講義に集中していました。参加希望が最も多かったのは、宮城県職員で、将来地元の自治体で活躍したい生徒が多いことがうかがえました。



今回の社会人講話で得た知識を生かし、今後の高校生活をより充実させてもらいたいと思います。

2学年 課題研究発表会

ポスターセッション

11月19日、本校体育館で2学年の課題研究発表会が行われました。

4月からESD課題研究として生徒たちが取り組んだ成果を班ごとにポスターにまとめ、ポスターセッションの形で発表しました。授業の科目にとらわれない自由な発想をテーマとしたユニークな研究が多く、生徒たちは、自分たちがこれまで研究してきたことを分かりやすく説明する面白さと難しさを感じながら、他の班の発表にも耳を傾け、お互いに学び合っていたようでした。

また、東北工業大学の菅原景一先生をアドバイザーとしてお招きし、発表会の最後に講評を頂きました。全体的な内容についてはもちろん、個々の班の様子についても具体的にお話しいただき、課題研究のまとめとして有意義な時間となりました。

生徒の感想

◎自分たちの班では思いつかないようなポスターのアイデアやレイアウトがあって、様々なポスターを見ることができてよかったです。ポスターのタイトルで聞く人の興味を誘うと考えていましたが、菅原先生の講評で、調べた内容や結果がパッと見て分かるタイトルが良いとおっしゃっていたので、次の課題研究では参考にしていきたいと思っています。(2年女子)

◎実際に発表し、質問を受けることで、改めて気付かされたり調べ切れていなかったりした点があることが分かった。もっと深く調べて準備しておくことができればよかったと反省しました。また、発表を聞く立場としては、文献調査だけではなくその後の考察や実験がしっかりとできているグループの発表には説得力があると感じた。理系の研究では実物を提示したり映像を使っているグループもあり、見せ方の重要性を感じました。(2年女子)



軽音楽部 新人大会グランプリ!

2020(こ)っち総文 出場決定

11月9日、専門学校デジタルアーツ仙台において第16回宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会が行われました。軽音楽部での部内選考を経て出場した2年生バンド・Innocent Geeks(イノセントギークス)がオリジナル曲「白夜」を披露し、新人大会では2年ぶり3度目となるグランプリを受賞しました。今大会は来年度に高知で行われる第44回全国高校総合文化祭高知大会「2020(こ)っち総文」の代表選考会も兼ねており、宮城県第一代表としての出場を決めました。

■ボーカル・ギター担当

2年5組 米澤 幸佑
(岩切中出身)

多賀城高校軽音楽部は放課後に普通教室をお借りして活動しています。宮城県内ではこのように毎日活動できている軽音楽部はあまりありません。僕たちは先生方や学校の協力のおかげで毎日部活動をする事ができています。

部活動中は部室での合わせ練習は一日に数十分しか割り当てられず、地道な個人練習が大半を占めます。高校まで楽器未経験だった僕たちが結果を残すには、この地道な練習をいかに意味のある「時間にするか」を考えることが必要でした。それに加え、顧問の先生や先輩方、バンドクリニックでお世話になった様々な講師の先生方からのアドバイスを取り入れて自分たちの曲を作り、今回の新人戦でグランプリを取ることができました。そこで分かったことは、意味のある「努力は必ず報われる」ということです。何も考えずにただひたすら練習するのではなく、何をやる必要があるのか一つ一つ考えて練習すること、そしてそのすべてが結果につながっているのだと思いました。

現在、東北の高校軽音楽のレベルは関東・関西と比べて低く、活動も活発とは言えません。全国のバンドに追いつけるよう、私たち多賀城高校軽音楽部は東北の高校軽音楽を盛り上げ、全国でも通用するレベルになるための貢献ができればと思っています。僕たちのバンドも、来年のこっち総文、そして最後のステージである文化祭まで全力で駆け抜けたいです。

